

特産品のブランド化に対する本市の考えは

問 本市の特産品をトップセラー化するための取組は。

答 産業振興部長／トップセラー化 に向けては、各産品の特徴やトレンドを見極め、市場等の動向を注視し、最適な販売手法を選択し取り組む必要がある。このことから、本市では首都圏において、量販店で試験販売やプロモーションを実施する。また、スーパーマーケットや飲食店で対面個別提供を行う。二ツチマーケティンングを実施しており、今後もこれらの取組を継続し、横展開するとともに、有名シェフによるレシピ開発の実施を

検討するなど、引き続き、トップセラー化を目指し取り組んでいく。

問 市内生産者や事業者の所得動向調査の取組は。

答 産業振興部長／五年ごとに実施 されるセンサス調査により、所得の動向を把握するとともに、生産者部会が構成されている沼津ねがた白ねぎやプチヴェールについては、収穫量や販売額の情報入手が可能であることから、これらのデータを生産者等と共有し、取組手法の検証を重ねるなど、長期的かつ戦略的に生産者の所得向上に向けて取り組んでいく。

小澤 隆



学校規模・学校配置の適正化に向けた取組は

問 学校規模・学校配置の適正化に向けた取組状況は。

答 教育長／令和五年度は、保護者 や地域住民、学校関係者などから意見を伺う「学校の未来を考える会」を、浮島・大平・第二中学校区に設置し、協議を進めてきた。協議に当たっては、保護者の声を尊重し、子どもの利益を最優先することを主軸とするほか、学校が地域コミュニティの維持・活性化に寄与することを考慮し、制度的・政策的に実現可能であることも重視している。今後は、地域住民説明会や保護者への意識調

査等を通して、より多くの意見を収集し、各地域の実態の把握に努め、学校配置についての方針決定に向けて着実に進めていく。

問 大平地区の市街化区域編入について、本市の基本的な考え方は。

答 都市計画部長／大平地区では、 静浦バイパスの開通により交通便利性が向上したほか、治水対策も進んでいる。また、第二次沼津市都市計画マスタープランでは、この地区を新たな都市的土地利用の可能性を検討する地区と位置づけ、周辺地区への生活利便サービスを提供できる施設や観光・地域振興施設等としての利用も検討されている。一方で、豊かな自然景観と優良な農地を有し、また治水対策上も重要な役割を担って

渡邊 博夫



▲千本小学校の授業風景（上）
学校規模・学校配置の適正化に向けて設置された学校の未来を考える会（下）

部活動の地域移行におけるサポートセンター設置の考えは

問 部活動の地域サポートセンターを設置することについての認識は。

答 教育長／部活動の地域移行 において、学校に代わる地域クラブ等の受皿づくりは、移行を進める上で重要な課題であると認識している。また、窓口機能の設置などを含め、支援の在り方については、先進地の取組を参考にしながら、必要な支援の在り方について調査研究を進める。

問 広報めまづの発行回数を減らし、自治会役員の負担軽減を図る考えは。

答 政策推進部長／令和五年度 の市民意識調査では、九割以上の市民が

いることから、スローリ現象や自然環境の破壊を避けるため、市街化区域編入は慎重に進める必要がある。

問 これからの大平地区のにぎわいや観光づくりに向けた取組は。

答 産業振興部長／大平地区は 自然・スポーツ・文化など、魅力ある観光資源を有しているため、引き続き地域資源の発掘や磨き上げに取り組むとともに、沼津港や沼津御用邸記念公園等の市内観光スポットや隣市町の観光資源との連携を進め、大平地区のさらなる魅力づくり、周遊観光の促進を図る。

小泉 宣子



大平地区の市街化区域編入とにぎわいづくりの取組は

問 大平地区の市街化区域編入について、本市の基本的な考え方は。

答 都市計画部長／大平地区では、 静浦バイパスの開通により交通便利性が向上したほか、治水対策も進んでいる。また、第二次沼津市都市計画マスタープランでは、この地区を新たな都市的土地利用の可能性を検討する地区と位置づけ、周辺地区への生活利便サービスを提供できる施設や観光・地域振興施設等としての利用も検討されている。一方で、豊かな自然景観と優良な農地を有し、また治水対策上も重要な役割を担って

井原 三千雄

